

# 主体性を養う次世代の教育制度とは

F11 班

宮城県仙台第三高等学校

日本では、戦後から現在に至るまでみんなで同じ内容を同じスピードで学ぶという量産型で均質的な教育がなされている。近年 AI 化が進む社会で活躍する人材を育成させるためにはこのままの制度でいいのか。今回は主体性を養う次世代の教育制度について考えていくことにした。千代田区立麴町中学校や大阪府立松原高等学校ですでに導入されている制度などから、教育において主体性を養うには「計画・意欲・方法」の三要素がそろっている必要があり、それを踏まえて必修科目に自分の興味のある分野から選択科目を選ぶ「カリキュラム選択」、課題を自ら探し解決方法を考え企画する工程までを行う「探究活動」、「宿題・定期テストの廃止」が適しているのではないかと考えた。

## 1 背景

近年、大学入試改革をはじめとして、日本の教育が見直されている。日本の教育制度は戦後からほとんど変わることなく、量産型で均質的な、生徒がみな同じ内容の学習をしてきた。しかし、近年 AI 化が進み、今ある仕事の多くが AI に担われるものになるのではないかと懸念が示されている。そのような社会をこれから生き抜いていかなければならない子供たちの教育制度はこのままでいいのか。そのように考えたわたしたちは、千代田区立麴町中学校での宿題・定期テストの廃止という取り組みを知ったことも踏まえ、自らの意志や判断で目的を明確にし、何をすべきか考え行動することのできる主体性を持った人材育成ということに焦点を当て、それを実現する教育制度について考えることにした。そこで、下記に挙げられる麴町中学校の例とリベラルアーツを参考に、私たちは主体的な人材育成の教育制度として「宿題・定期テストの廃止」「文系理系を分けずに行う教育」が実現可能なのではないかと仮説を立てた。

## 2 材料と方法

<麴町中学校の例>

~~宿題 定期テスト クラス担任制~~

やらされる教育ではなく自ら学ぶ姿勢を育てる

主体性を育てることが目的

<リベラルアーツ>

真の教養

自由人として  
生きる

答えのないものへの解決力

多岐にわたる教育

メリット

デメリット

視野が広がる

専門性の精度が下がる

デメリットもあるが増加傾向にある

宿題を廃止した場合、それぞれが必要と思うものを考えるようになる。自分でなにをやればいかわからないとき、学校で必要なサポートを受けられるような仕組みがあれば、自ら考えて参加することで、積極的に学習できる。また、

定期テストを廃止する代わりに、単元テストがさらに細かく行われる。よって、苦手分野がよくわかり、定期テストとは違って何度も挑戦することができて、意欲の評価をすることも可能だ。また、文系理系の枠組みをなくし、幅広い教養を得ようとするリベラルアーツも参考にした。これには視野を広げることができるなどのメリットもある中で、専門性に欠けるというデメリットもある。

また、実際に教育に携わっている学年の先生方にアンケート調査を行った。

＜先生方へのアンケートによる調査＞

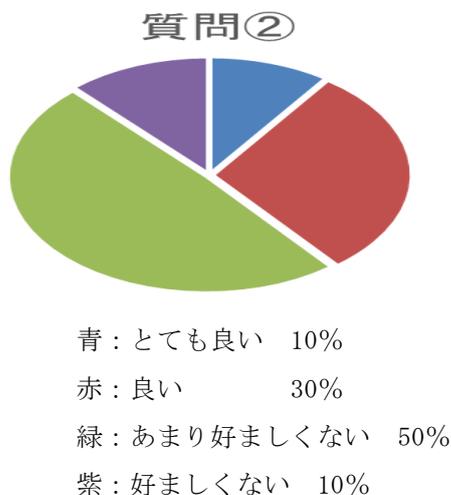
対象：仙台三高第二学年の先生方（2019年度）

質問；①上記の中学校の取り組みについて

どう思うか。

②文系理系を分けずに行う教育について

### 3 結果と考察



先生方からの意見としては、好ましくないと捉えるものが多く、その理由としては学力差拡大への懸念や、代わりに単元テストの導入により定期テストよりも回数が増え、先生側生徒側両方における負担増加が見込まれることが挙げられた。

質問②

回答の内容関係なく、多くの先生方が幅広い教養を得ることができるという点を評価してい

る。しかしその一方で、入試の面で試験科目へのサポートが行き届きづらいのではないかという意見も多く、実際の導入は難しいであろうという声が多かった。

- ① 必修科目+選択科目（160以上）
- ② 参加型→参画型（課題を探し、解決方法を考え、企画する。）
- ③ 宿題・定期テストの廃止

① リベラルアーツを参考にした授業内容として、入試に必要な科目は必修科目として設定し、そこに選択科目を加える方法がある。選択科目は、かなり幅を広げていくと、160以上の科目（農業・福祉・保育など）が選択できる。そうする事で、高校大学と進学するうちに、自分の興味のあるものの力を伸ばし、さらに専門分野へとしぼることができるので、専門性が伸び、皆と同じ学習から抜け出すことができるだろうと考えた。

② ここにおける探究も、アブストラクト内の三要素をもとに考え、「参画型」とし、自分の興味分野の課題を探し、その解決方法を考え、実行に向けて企画も行う。学校側の方針にもよるが、視野を広げるという面でも、できれば文系理系を分けずに行う。

③ 上記のカリキュラム選択で、入試に及ぼす懸念を解決できれば、これらの導入は可能だと考えられる。この仕組みで自らに必要な勉強を計画し実践する力、すなわち自ら考え行動する力を養うことができると考える。

【参考文献】 閲覧日 2019年6月21日（金）

○Web ページ

「文部科学省ホームページ」  
<http://www.mext.go.jp>

「桜美林大学ホームページ」

<http://www.obirin.ac.jp/>

「大阪府立松原高校ホームページ」

<http://www.osaka-matsubara.ed.jp/index.php>

「千代田区立麴町中学校ホームページ」

<http://www.fureal-could.jp/koujimachi-j/>

「ベネッセグループホームページ」

<http://berd.benesse.co.jp/>